

びわこの東から

発行：湖東土木事務所
〒522-0071滋賀県彦根市元町4-1
TEL 0749-27-2254(管理調整課)
FAX 0749-23-3531
Email ha34150@pref.shiga.lg.jp

今年度、組織目標による「見える化事業」の一環で情報誌を発行しています。土木の歴史などを交えて皆様にも熱く伝えますのでどうぞご覧下さい。

7月号 その時歴史は動く！への招待 ➡ 砂防の幕開け、西川作平とヒメヤシャブシを紹介しています。

主要地方道 彦根八日市甲西線 (愛知郡愛荘町沖地先) 交差点改良の紹介

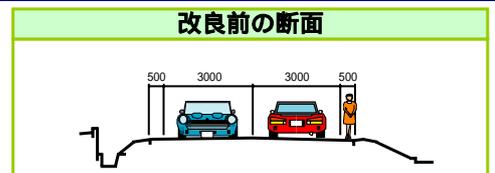


改良前



改良中(工事予定箇所)

H22工事



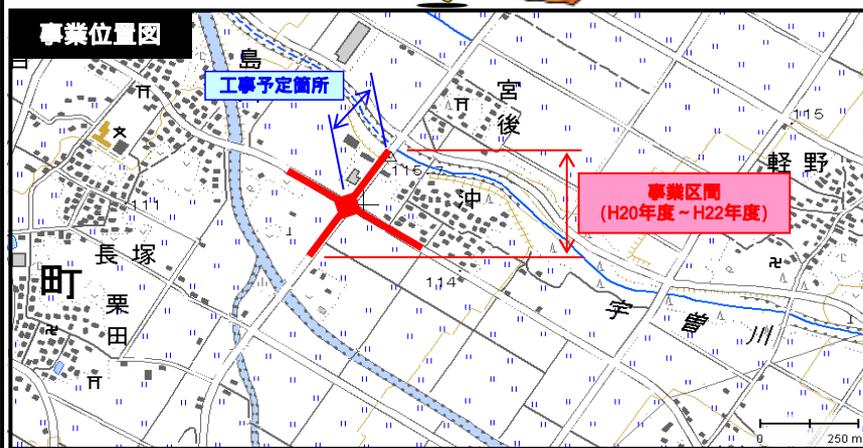
改良前の断面



計画断面

車道も狭いし、歩道が無いと危険だね！

もう少しで安全な道になるね！



事業位置図

工事予定箇所

事業区間 (H20年度～H22年度)

現状と課題
交差点が狭く、右折待ちによる交通混雑を引き起こしている。
歩道がないため、歩行者が危険にさらされている。

事業目的
右折レーンの設置により交通混雑を解消します。
歩道の設置により歩行者や自転車の安全な通行を確保します。

工事のお願い
今年度の工事で交差点改良が完成いたします。
工事期間中ご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

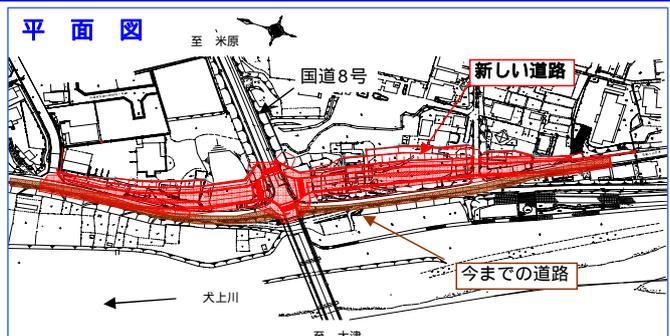


[改良計画担当]

一般県道 八坂高宮線 (千鳥橋北詰) 交差点改良の紹介



位置図



平面図

新しい道路

今までの道路

歩道:3m 車道(片側):3.25m

横断図



現状

・現状の問題点

1. 車道幅員が4.0～5.0mと狭い。
2. 右折車線がない。
3. 橋側の交差点の隅切がほとんどなく大型車が通行しにくい。
4. 歩道がない。

このようなことから…

朝夕には交通渋滞が発生
歩行者や自転車での通行が危険

現状の問題を解消し、安全に通行できるよう平成23年度完成を目指し工事を実施していきます。工事中はご迷惑をおかけしますが、ご理解・ご協力をお願いします。

[維持補修担当]

土砂災害防止月間

6月は、土砂災害の防止と被害の軽減を目的に「土砂災害防止月間」とされています。

滋賀県では6月1日の朝に県内主要駅にて街頭キャンペーンを行いました。

当事務所では、砂防ボランティアの方と彦根市さんの協力を得て、彦根駅西口で通勤、通学の方に「土砂災害警戒情報」について記載されているポケットティッシュを配り、啓発を行いました。



6月は土砂災害防止月間で～す！

JR彦根駅でポケットティッシュを配布する土木の職員たち。

[砂防担当]

危機管理

時間内初動訓練の実施

課題と方針

緊急輸送道路の点検箇所の見直しとシナリオ訓練の中身の見直しをします。

6月30日(水)甲良町を震源とする大規模地震(震度5弱)が発生したとの想定で訓練を実施しました。

「情報の収集に当たる総括班長！」



外部からの情報をパトロール班に的確に伝える、情報伝達訓練も大事な訓練の一つです

今回携帯電話を多用するも、災害非常時に携帯電話が機能するのか？との意見や、もっと防災無線を多用すべき！との意見が出ました。

〔計画調整担当〕



平成22年10月1日
国勢調査は みんなで描く日本の自画像

総務省・滋賀県・市町(統計課依頼)

情報伝達

愛知川右岸河畔林の会を開催しました。

地域から80名の参加ありがとう！



タケノコの日ぶらは評判でした。

平成22年6月12日(土)に愛知川右岸河畔林の会の「愛知川でタケノコ採りをしよう」イベントが開催され、彦根市本庄町地区の竹林整備を行いました。(竹林面積約1,200㎡)

当日は枯竹・折竹の除去作業の後、タケノコと野草の天ぷらの試食会を開催しました。将来的には地域の人々に日常の散歩や季節のイベントを通して『活用』していただくとともに、枯竹除去や清掃などの『管理』活動を通じて更に地域に根ざした川づくりを目指していきます〔河川担当〕

彦根工業高校・(インターシップ)現場実習を受け入れしました！

基本を大切に！

7月6日・7日の2日間の実習でした。

彦根市鳥居本町の急傾斜地現場にて！



工事現場に携わる人たちの苦労を身を持って体感しました。

発進側立て坑構内の大きさに驚き！まるで戦艦大和の船底の様です

稲枝・踏切除却工事



規格値内に納めてくださいネ！・・・

ポール横断測量を実習しました。



〔計画調整担当〕

縦断測量を実習しました。

特集・その時歴史は動く！

～西川作平とヒメヤシャブシ～



湖東の土木遺産は今！

西川作平の碑が建てられ、当時の苦労を忍ぶことができます。



明治の流路工



現在の流路工

西川作平は、天保13年(1842)3月西川貞右衛門の長男として斧磨村(愛荘町斧磨)に生まれました。宇曾川ダム付近の秦川山や向山の共有林は「細民の米びつ」と呼ばれ、棒一本、鎌一本の資本で薪をこれらの山に求め、一家の生計を支える人が多かったのです。その、かん伐の結果、向山等は瘠せ、水は涸れ、山の荒廃著しく2～3日の降雨で出水し、村民はその被害に年中悩みました。慶応年間のこと作平による自生ヒメヤシャブシの植栽は以後30年以上継続され総本数72万本、総面積60町歩におよぶ大規模なものでした。この結果、豪雨時の堤防決壊等の被害もかなり減少したと云われています。明治27年(1894)宇曾川流域において県営砂防工事が実施され、左の写真のように水路(石張)工延べ196mが施工されたのは、明治44年から大正元年にかけてのことでした。その後、宇曾川流域の砂防の努力は連続と続けられ、今日、コンクリート堰堤など工法の大きな進歩はありますが、西川作平が1本ずつ植えたヒメヤシャブシに込めた思いが、今もなお、宇曾川流域を緑豊かに保たれ続けています。

ヒメヤシャブシ・・・カバノキ科ハンノキ属の落葉小高木。山地に適す。

【道・案内】明治の流路工へは、お車で宇曾川ダム上流の山比古湧水で下車。歩いて10分です。森林浴を浴びながら、湖東の土木遺産をゆっくりとご覧下さい。

愛荘町歴史文化資料館発行資料より抜粋 〔計画調整担当〕

編集後記

今年度初版を発行します。湖東のハード整備はまだまだこれからですが、土木の原点は何か、基本は何なのかを、特に若い職員に考えて貰いたいと思っています。事務局

所長コメント

今回は、土木事務所の取り組みの一つ、交差点改良について紹介させていただきました。交通渋滞対策や自転車歩行者の安全対策として重要な事業であります。また、危機管理のための訓練や地域のみなさんとの協働による川づくりにも取り組んでいます。このような取り組みについて皆様のご意見をお聞かせ下さい。